2012年11月30日発行（不定期発行）　編集・発行　創像工房 in front of.　〒223-8521　神奈川県横浜市港北区日吉4－1－1　慶應義塾大学日吉キャンパス　塾生会館218

創像日記 2016

〈1月〉

●青春迎春コメディ公演
『パチコイ！！ ―副キャプテン、野球部やめるってよ？―』
脚本・演出　永滝雄治

創像では久しぶりの純粋なコメディ公演。2年前に観客を笑いの渦に巻き込んだあの『＋α』の脚本・演出、永滝雄治の次回作。年始めにふさわしいたくさんの笑いを提供する作品であった。この年度の流行語も生まれた。

〈2月〉

●2月映像企画
『Film Festival 2016』
企画責任　鴇田哲実

毎年恒例の映画祭。東京学生映画祭に出展されたかつりか監督の作品や後にシネマジャンクションで賞を取る岩田直之監督の作品を始め、まさに種々様々な映画が公開された。合Cが本物さながらの映画館のように作られた舞台客席も高評価であった。

●2月本公演
『ワザハイは不器用星人であるっ』
脚本・演出　小林史明

脚本家・役者として現3年代を牽引する小林史明の初本企画作品。自身も役者として出演し、観客に感動を届けた。またブシオ役の北井翔二には注目が集まった。この公演の名台詞は「はい、牛乳！」「はい、カルシウム！」

●2月全国学生演劇祭出展作品
『DO THE 雷』
脚本・演出　永田一行

2014年の創像工房の代表にして、新人公演の演出を担い、去年9月の東京学生演劇祭で優勝した永田一行による、京都での全国学生演劇祭の作品。惜しくも賞には届かなかったが、遠い関西の地で大健闘した。

〈3月〉

●3月公演
『HIYOURA―ヒヨウラ―』
脚本・演出　比企能博

当時の創像最年長、比企能博の作品。主演は現在「劇団 柿喰う客」に所属する田中穂先。観客の投票による分岐エンドが話題に。この年度の、工房員によっての投票で決まるSOZOデミー賞を総なめにした。

●創像工房 in front of.×21g座3月　杉並演劇祭出展作品
『在りし日の街 ～謳歌せよ、我が世～』
脚本・演出　岡戸優太

話が長いことで有名な岡戸優太の創像最後の作品。冠名とタイトルも長い。結果は惜しくも賞に届かなかったが、SOZOデミー賞では脚本賞を取るなど、この年度の最後を締める作品にふさわしかったといえるだろう。

〈4月〉

●オリエン公演2016
『しんにゅうせい』
脚本・演出　浅井啓介

『絶体絶命全身全霊ガール AKANE ～あ、覚えづらいタイトルでごめんなさい。このお芝居のタイトルは覚えなくていいので創像工房 in front of. の名前だけは覚えてね。って思ったけどやっぱりアナタの記憶の片隅くらいには残って欲しいので多少省略しましょう。こっから先が覚えやすいタイトル"AKANE"～』
脚本・演出　本多啓夢

2016年度のオリエン公演は、全くタイプの異なる2作品が上演され、バランスが保たれた。この2作品を観劇して創像工房に入部した現二年生も多い。

〈5月〉

●5月WSコメディー公演
『銀河のかたすみで』
演出　鴇田哲実・脚色　鴇田哲実　本間志野

2015年度新人公演企画責任四年代の鴇田哲実によるコメディー公演。笑いにこだわりを持つ彼の姿勢が垣間見える作品で公演中は常に会場が笑いに包まれていた。また、演出自らほぼ全裸で舞台に立つという意地を見せた。

〈6月〉

●新人公演2016
『風を継ぐ者』
原作　成井豊・演出　小林史明

恒例行事ではないが毎年恒例となっている新人公演。今年は創像工房の看板役者となりつつある小林史明が企画責任を務めた。上級生、新入生が一丸となって舞台上に熱い想いを込め、多くの観客に感動を与えた。

〈8月〉

●夏WS公演2016 ～夏を継ぐ者～
『百花繚乱！！』
脚本・演出　中山一聖

『魔法戦士ミミ☆パティシエールっ♪』
脚本・演出　桑原寧子

『BLACK HOLE STORIES』
製作　映像部

毎年恒例、一年生のための企画。今年のテーマは『夏を継ぐ者』であった。企画責任が思い付きでつけたテーマの意味はよく理解できないが、今年も先輩から後輩へと各セクションのノウハウはしっかりと受け継がれた。

〈9月〉

●9月爆裂ワンダフル公演
『歓声喝采！ネバー・ネバーランド』
脚本・演出　鴇田哲実

4年代「とっきーさん」こと鴇田哲実の創像工房では4作目となる演劇作品。今回は「テーマパーク」をテーマにチョイス。公演仕込み中、舞台監督の声のボリュームが大きな話題を呼んだ。

●9月長澤復縁WS公演
『人間風車』
脚本　後藤ひろひと・演出　長澤祥

3年代随一の鬼才・長澤祥が満を持して出した企画。稽古場ではかなりの恐怖政治が行われていたようだ。その恐怖に震え、2年代赤間洸介や3年代有隅蕉は稽古を無断欠席するということもしばしばあったようだ。その影響か、舞台演出も恐怖・ホラーが押し出されていた。

〈10月〉

●10月公演
『フェアリーテイルはありえない』
脚本・演出　白石浩喜

三田祭公演2014『ビフォア・ミッドナイト』にて脚本デビューを果たした3年代白石浩喜、念願の本公演。多くの1年代がこの公演を通して初めて創像工房の本公演に参加した。

●10月公演
『絶対領域　―くらえ！なけなしのありったけ！』
脚本・演出　北原彩帆

ハレンチなタイトルとは裏腹に、本編は感動をテーマにしたSFストーリー。現2年代が中心になった初めての本企画。また、脚本助手の活躍が光った。度重なる改稿の中でも生き残った台詞「ニンニクニンニクニンニク…」は密かに流行した。

〈11月〉

●11月番外公演
『イッムニ』
脚本・演出　武井寛樹

3年代、4年代、OBが中心となって製作された小規模公演。過去公演のオマージュを交えつつ、カラオケルームを舞台にしてシュールコメディを展開した。

●三田祭公演2016
『TAKETORI '69』
脚本・演出　用松亮介

『ガールインザボックス』
脚本・演出　梅津貴也

今年も一年生だけの公演、三田祭公演が、三田キャンパス第一校舎103教室にて行われた。上級生たちの間では、様々な話題を呼んだ。三田祭恒例の「照明部コント」は今年も行われたようだ。

〈12月〉

●12月公演
『あたらしい朝は、』
脚本・演出　お茶碗カケル

乞うご期待を！

今年度最後の会報でした！3年代編集部員から最後に一言！

今号で現3年代は会報工房を引退になります。1年振りに復活した会報工房を楽しんでもらえていれば幸いです。僕は校閲ができて幸せでした。来年もお楽しみに！（武井）

武井はやっぱり最高だった。武井が率いるこのメンバーでやれた事を誇りに思う。ありがとう武井。（及部）

とても辛い作業で何度も打ち砕かれそうになりましたが、最後までやり遂げられて良かったです。（永岩）

ここ最近の創像の唯一の活動場所でした。やっぱり武井は武井でした。意外と楽しかったです。（坪井）